

To-Collabo通信

Tokai university Community linking laboratory



Vol.14
2017.3.27



To-Collabo推進検討会を開催 来年度新設の地域連携センターについて情報を共有

1月27日に高輪校舎で、2011年6年度東海大学ToCoCollab oプログラム推進検討会を開催しました。本学の地域連携の推進について検討するとともに、校舎間連携の強化を目指すのです。また、今回は来年度からToCoCollab o推進室と高輪校舎のエクステンションセンターを統合し、湘南校舎に地域連携センターが新設されることから、その概要や役割、今後の展開についての情報共有も目的としています。当日は、湘南、代々木、高輪、清水、伊勢原、熊本、札幌の7校舎から、ToCoCollab oプログラムの運営を担当する教職員24名が参加しました。

はじめに、ToCoCollab o推進室の池村明生室長が登壇。地域連携センターの基本方針について説明し、「文部科学省『地(知)の拠点整備事業』採択期間の終了後を見据え、今後もさまざまな地域課題の解決に取り組んでいきます」と語りました。さらに、同センターで取り組む「トコラボ事業(連携企画調整)」「クロスク工業ア事業(地域交流活動)」「エクステンション事業(公開講座運営)」について解説。18年度の本格稼働に向けたスケジュールなどについて語りました。

続いて、エクステンションセンターの篠原正明課長が、同センターの歩みや活動概要を説明。小田急カード事業部の「まなたび」とセンターの開講講座との提携に至る経緯やその成果について紹介しました。

その後、広島県地域医療センター長の橋本康男氏による講演「人と組織をつなぐコーディネーター力を実施!!下記事参照。情報交換会では、各校舎の取り組みについて、参加者が活発に意見を交わしました。



職員としての行動提案を考える全体ワーク



講演する橋本氏



篠原課長がエクステンションセンターの活動を紹介



池村室長が地域連携センターの方針を説明

講演とワークショップでコーディネート力を考える



以上所述均为本发明的较佳实施例，但并不用于限制本发明，凡在本发明的精神和原则之内所作的任何修改、等同替换和改进等，均应包含在本发明的保护范围之内。

公益財團法人広島県地域保健医療推進機構地域医療支援センター長を務める橋本康男氏による講演は、「人と組織の力をつなぐコーディネート力－社会の一員としての大学の役割と可能性－専門家を生かす専門職としての職員への期待」をテーマに実施しました。

大学院修了後、広島県庁に入職した橋本氏は、公務員として初めて伊藤長商事に出向後、県庁で産業振興に携わったほか、シンガポール広島事務所長を務ひるしま国際センターの交流部総課長、広島大学地域連携センター教授を歴任するなど多彩な経歴を冒頭で紹介。これらの経験から広島大学における社会連携の摸索や、そのあり方、大學組織と職員の変化について語りました。また、組織間連携におけるコーディネート力の重要性について語り、「あなた自身が自ら言い出し、何かを生み出したことがありますか？」と問いかけた教職員に「問題意識と課題解消力」を養うには個のネットワークが有効」と説明しました。

東海大学と地域を結ぶ8つの大学推進プロジェクト

これまでに取り上げてきた6事業に続いて、今回はエコ・コンシャス計画の「エネルギー・ハーベスト事業」「環境保全事業」の代表を務める教員に、これまでの活動と今後の展開について聞きました。

インタビュー



福田 紘大 准教授
工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻



シンポジウムでは、エネルギーに関する最先端技術についてポスター展示も行われた



昨年12月に開催したTOKAIグローバルフェスタ2016でもソーラーカーがデモ走行し、来場者を楽しませた



出前授業では、学生の工夫でさまざまな実験が行われた



鳥の羽など実物を展示し、コムクドリについて紹介する竹中准教授(右)



実際に近隣の河川に赴いて、生息する生物について学生が説明した

今年度は、エコエネルギー教室やシンポジウムを通じて、地域への情報発信や今後の連携に向けて検討を重ねてきました。

今年度は、エコエネルギー・ハーベスト事業の越波型波力発電といった最新の研究を紹介したほか、国立研究開発法人森林総合研究所の塙藤徳氏に木造住宅の新技術に関する講演をしていただきました。

2月13日には、1年間の活動の集大成として、平塚市でシンポジウム「創エネ・省エネ技術の最先端～考え方～」を開催。本事業のメンバーである長谷川真也准教授（工学部動力機械工学科）の熱音響システムや、田中博通教授（海洋学部環境社会学科）

07 エネルギー・ハーベスト事業 — 大学と地域が一体となつてエネルギー問題を考える —

08 環境保全事業 — 調査研究や勉強会を通して次代の担い手を育成する —

行政の担当者を交え、今後の連携の方や大学に期待する役割について議論を重ねました。

これまでのイベントには市民の方が数多く来場していただきました。

また、本学におけるソーラーカーの取り組みを中心

これまでのイベントには市民の方が数多く来場していただきました。

また、本学におけるソーラーカーの取り組みを中心

これまでのイベントには市民の方方が数多く来場して

おり、エネルギー問題に対する関心の高まりを実感しています。今後は、より効果的な情報発信の方法や、市民・行政との連携のあり

本事業では、「環境保全」をメインテーマに、「環境保全型社会」に向けた次世代育成の取り組み」をサブテーマ

に掲げ、湘南・清水・札幌の各校舎でさまざまな取り組みを開催してきました。

湘南校舎では、金目川水系をフィールドに調査研究を行い、近隣や清水地域の小中学校などで出前授業

1月22日には、今年度の活動のまとめとして、湘南校舎で「環境保全型社会」に向けた次世代育成の取り組み

1月22日には、今年度の活動のまとめとして、湘南校舎で「環境保全型社会」に向けた次世代育成の取り組み

1月22日には、今年度の活動のまとめとして、湘南校舎で「環境保全型社会」に向けた次世代育成の取り組み

1月22日には、今年度の活動のまとめとして、湘南校舎で「環境保全型社会」に向けた次世代育成の取り組み

1月22日には、今年度の活動のまとめとして、湘南校舎で「環境保全型社会」に向けた次世代育成の取り組み



藤野 裕弘 教授

教養学部人間環境学科自然環境課程

方を探りつつ、大学と地域をつなぐさまざまな取り組みを行ってきました。さらに、市民団体との連携を重ねました。

湘南校舎では、金目川水系をフィールドに調査研究を行い、近隣や清水地域の小中学校などで出前授業を実施。清水校舎では、海洋学部長の千賀康弘教授の指導のもと、学生たちが水棲生物を考える研究会や環境保護の啓発活動に取り組んでいます。また、札幌校舎では、生物学部の竹中万紀子准教授が中心とな

り、「コムクドリの生態と渡りの解説」について地域社会実現に向けて、次世代をどのように育成すべきかについて討議しました。

どの活動にも学生が積極的に参加し、広く環境保全の大切さを伝えています。

今後も各校舎の教員、学生、地域の方々と協力して活動を続けていきます。

坂部教授が環境化学物質が健康に及ぼす影響について正しく理解する重要性を語った



坂部教授が環境化学物質が健康に及ぼす影響について正しく理解する重要性を語った

活動報告

「南沢かんじきウォーキング」
スポーツと他分野を融合



地域の自然と運動を楽しんだ

大学推進プロジェクト「ライ
フステージ・プロジェクト」
スポーツ健康事業では、1月
29日に札幌校舎で「南沢かん
じきウォーク」を開催しました。
雪中をウォークしながら冬山を散策し、心身ともに
健康になることが目的。地域
住民ら15名が参加し、樹木専
門家の森田敏さんの案内のも
と、木製輪かんじきを履いて、
校舎内の「光風園」を散策しま
した。春から秋にかけては歩
くことのできない場所にも踏
み入り、高く積もった雪の上
から樹木を間近で観察するな
ど、この時期ならではの楽し
み方を満喫しました。イベン
トを担当した植田俊助教(国際
文化学部)は「寒い中でも運動
を楽しんでもらえました。これ
からもスポーツと他分野が融
合した活動を進めていきたい」
と話しています。

—湘南校舎—

「湘南里川づくりフォーラム」 金目川水系の今後を考える



魚部について語る井上氏

湘南校舎で2月5日に「湘南里川づくりフォーラム2017～金目川水系の今後～」を開催しました。「湘南里川づくり」について広く知つてもらい、参加者間の交流を図ることを目的としたものです。

教養学部人間環境学科自然環境課程の藤野裕弘教授が会長を務める「湘南里川づくりみんなの会」が主催し、大学推進プロジェクト「エコ・コンシャス計画環境保全事業」の一環で実施したもの。学生や地域住民ら161名が参加しました。

北九州で活動する市民参加型の任意団体「魚部」代表を務める井上大輔氏が基調講演。プロアマ問わず250名の生物分科会や全体意見交換会も実施したほか、学生らによる「里遊び体験」では参加者が藍染めや糸作りを体験しました。

— 清水校舎 —

「清水港みなと色彩セミナー」
学生が研究の成果を発表



研究成果を発表する学生

大学推進プロジェクト「観光イノベーション計画・地域観光事業」の一環で、海洋学部生らが活動に参画している「清水港・みなと色彩計画」による「清水港・みなと色彩セミナー」が2月6日に、静岡市役所清港庁舎で開催されました。

同計画が創設25周年の節目を迎えることを記念して開催されたものです。本事業の共同取組者で色彩計画アドバイザー会議の座長を務める東惠子教授（海洋学部）の指導のもと活動してきた学生が、これまでの研究の成果を発表しました。学生たちは、「富士山世界遺産三保松原周辺の観光と安全性について」や「遊歩道の空間整備によるJRW 清水駅と清水港の周遊性向上」などをテーマとした研究の成果をアピールしました。

—湘南校舎—

シンポジウム「創エネ・省エネ」 最先端のエネルギー研究を紹介



パネルディスカッションでは大学院生も発表

2月13日に平塚ブレジールで、シンポジウム「創エネ、省エネ技術の最先端～考えよう私たちのエネルギー～」を開催しました。再生可能エネルギー技術研究開発に於ける最新の情報発信、地域の方々がエネルギーについて考える機会などでもらおうと、大学推進プロジェクト「エコ・コンシャス計画」工学部（工学部）、木村英樹准教授（基礎工学部）、田中博通教授（海洋学部）、清田英夫教授（基礎工学部）が研究成果を紹介した。また、招待講演では、塙藤徳氏（国立研究開発法人森林総合研究所）が、自身が開発した柱梁工法の概要を中心にして解説。本事業代表の福田紘大准教授（工学部）が進行を務め、大学院生らを交えたパネルディスカッションも実施しました。

—湘南校舎—

「ベジタマもなか」の展覧会
地産地消の試作品をお披露目



親子連れなど約700名が来場

教養学部芸術学科デザイン学課程の池村明生教授とゼミの学生たちが、3月3日から5日までひらつか市民プラザで「もなかでひらつかを食べよう！」展を開催しました。大学推進プロジェクト「地域デザイン計画ブランド創造事業」が平塚市と協力して取り組んできた「ベジタマもなかプロジェクト」の今年度の総括として実施したもの。

平塚市の漁業PRキャラクター「ひらつかタマ三郎」と平塚産農産物PRキャラクターの「ベジ太」を用いたもなかの皮を完成させました。展示会では、平塚市の飲食店など14団体が地産地消をテーマにした20種類の試作品を紹介。湘南産のみかんを活用した柑橘もなかなどを披露しました。

—湘南校舎—

津波発生時をシミュレーション、 大規模災害への備えを学ぶ



相模湾油污発生時のシナリオ・シミュレーション

3月11日に湘南校舎で、下流域の自然災害と防災対策を開催しました。大規模な自然災害を振り返り、今後の備えについて住民とともに考えよう、大学推進プロジェクト「地域デザイン計画・安心安全事業」の一環として、共同取組者の杉山太宏教授（工学部）を中心となり企画しました。

地域の声

今回の「地域の声」は今年度の締めくくりとして、落合平塚市長からメッセージをいただきました。

東海大学と平塚市とは昭和61年から大学が持つ専門技術や知識、研究活動を通した交流のほか、地域と大学とが相互に発展することを目的にさまざまな事業を展開しています。

平成28年度は To-Collabo

プログラムを通して新たに2件の試みに挑戦しました。一つは、学生さんが公民館の現状と課題を学び、公民館担当の市職員との意見交換や議論を通して、課題解決に向けた提言をする試み。下記記事参照。もう一つは「市民と市長の対話集会」の一環として、「ひらつかの魅力発信」をテーマに、学生さんが私と意見を交換し、本市の魅力アップの方策を提案する試みです。学生さんからいただいた提案や意見は、市職員とは一味

異なる分析が盛り込まれ、若者ならではの着想、手段などが新鮮で、とても有益なものでした。私自身も初めて気づく、本市のイメージや捉え方が多々あり、感受性の鋭さに驚嘆しました。平塚のことを真剣に考え、客観的な視点で、率直な見解を投げかけてくれた皆さんの熱意を高く評価しています。

このブランドは、県内4市1町と漁業関係者、企業などが連携した「水産物を活用した産業活性化事業」の一環として、水産物の魅力発信や観光振興を目指しているものです。

静岡おでんカレーは海洋学部の卒業生が経営する企業などと連携し、同専攻の学生たちが開発してきた黒はんぺんを使ったカレーをベースにしたもの。一方「せんはだかの魚醤油は、駿河湾で水揚げされる未利用の深海魚「せんはだか」を発酵させた調味料として漁業関係者らと開発しました。

深谷さんは、「今日からできる自宅の安全対策」「ペットの備蓄品」「普段の散歩を防災に活かす方法」「被災時の飼い主としての心構え」の4テーマに沿って説明。「『ペットの命を守るのは飼い主だけ』と割り切るしたかさも必要」と述べました。

2月21日に東海大学サテライトオフィスで、地域連携講座「ペットのいのちを守ろう！」を開催しました。

今回は、シリーズ「まちの先生」の第5回として、神奈川県動物愛護推進員でペット災害危機管理士の深谷美登里さんを講師に招きました。湘南校舎に近い秦野市南矢名で一級建築士などとしても活躍している深谷さんは、ペットと災害の関係について日々から抱いている危機感などを広く普及する活動に取り組んでいます。

2月15日には新ブランド商品やメニューを披露する発表会が行われ、約100名の来場者に商品が紹介されました。

活動情報配信中!!

東海大学

東海大学